

5 おわりに

「この歌あの人」の放送記録作成に当たっては、新聞のラジオ欄によるところが大きく、特に近畿放送のみでの放送となった昭和47年4月の第178回以降は京都新聞のみが頼みの綱となった。よって、特にこの時期の放送記録は不明な点が多く、やむを得ず空欄の面積が大きくなってしまった。「放送全記録」と呼ぶには程遠いため、本誌のタイトルは単に「放送記録」としている。

本来であれば、もっと調査を進めてからアウトプットすべきだという意見もあろうが、アウトプットすることで読者の皆様からご教示いただける情報が多々あるだろうと思い、今回世に出すこととした。「この歌あの人」の放送記録はこれで完結ではなく、あくまでも「初版」という位置づけである。この番組に関する情報をお持ちの方は、何卒筆者にご教示願いたい。

また、第3章「放送記録」の「放送概要」欄は、主に中日新聞と京都新聞のラジオ欄の記述を元としているが、この記述内容に事実誤認が時々見受けられた。例えば、第69回の放送内容を記した昭和45年3月10日付京都新聞朝刊の記事には、青葉笙子が「鴛鴦道中」を上原敏と歌ったのは昭和14年と記述されているが、正しくはこの歌が収録されたレコードの発売年は昭和13年である。このように記述誤りに気がついた場合には適宜修正を加えたが、気がつかないままの箇所が多々あるかもしれない。こちらについても、何卒筆者にご指摘願いたい。

本誌作成に当たっては、A氏・B氏・C氏の3氏から貴重な資料をご提供いただいた。A氏からは木村孝雄自費制作LP同封③・④のご提供、及び最終回の録音音源をお聞かせいただいた。B氏からは『わが思い出と歌ごころを語る 不滅の名歌手 東海林太郎』のカセットテープを、C氏からは『岡晴夫大いに語る』のLPをそれぞれご提供いただいた。3氏からのご協力がなければ本誌は完成しなかった。謹んで感謝申し上げます。